

日高地区 新規就農者紹介



【機械メーカーから農業へ、若い二人の挑戦】

広島県出身の康太郎さんは高校を卒業後、埼玉県の機械メーカーに就職し、芝刈り機の開発を担当していました。北海道旭川市出身の瑠南さんも高校を卒業後、同メーカーで電線の設計に携わっていました。そんな二人は結婚し、共働きをする中で「自分たちの時間を確保するのが難しい」と感じるようになり、次第に自らの裁量で働く自営業に関心を持ち始めます。そんな折、日高町でトマト農家を営んでいた瑠南さんの親類が離農するという話を聞き、子育てや労働時間の柔軟性も考慮し、後継者として就農を決意。親類のもとで研修を重ねましたが、諸事情により経営を継承できなくなりました。そこで検討したのが、トマトの一大産地でありブランド化が進む平取町。「ここでは選果等のシステム化が整っており、しっかりと営農すれば安定した生活を送ることができる」そう考えた二人は、平取町振内地区でスタートを切ることを決意しました。

2025年10月取材

中村 康太郎さん、瑠南さん (平取町)

就農年：2024年4月

経営形態：施設園芸（ビニールハウス7棟、約40a）

作付品目：大玉トマト（生産量：52t）

寒締めほうれんそう

【研修から就農へ】

平取町での研修プログラムは、1年目は受け入れ農家のもとで農作業の基礎を学び、2年目には実践農場でトマト栽培に取組ます。2年間で、土づくりから環境整備、苗の管理、定植、収穫、出荷まで、トマト栽培に関わるすべての工程を、受け入れ農家の指導を受けながら身につけることができます。こうした経験をとおして、受け入れ農家の親方とは深い信頼関係を築きました。

また、地域によっては、就農地を自ら探さなければならない場合もあるようですが、平取町では円滑に就農できる体制が整っています。研修2年目から地域の農家やJA、町で連携し、就農地の確保や機械の導入、ビニールハウスなど栽培施設の整備に着手する体制になっているため、安心して就農準備を進めることができます。

【広い土地でのびのびと生活しています】

康太郎さんの趣味はバイクと車です。以前住んでいた埼玉県では考えられないほど広い土地があり、十分な駐車スペースを確保できることも、平取町に決めた理由の一つでした。農業に取り組むかたわら、時間を調整して休日をつくり、夫婦でドライブに出かけるなど、広大な大地を満喫しながら楽しい毎日を過ごしています。

【活用した補助事業】

- ・(北海道)地域づくり総合交付金
(JAびらとり新規就農者用リース農場整備事業)
- ・(平取町)新規参入者就農促進対策事業
- ・(国)青年等就農資金、就農準備資金、経営開始資金

就農にあたり、トラクターの購入に「青年等就農資金」を、ビニールハウスや灌水ポンプなどは平取町や北海道の補助事業を活用しました。特に平取町では最大500万円の支援があり、就農を後押しする心強いサポートでした。



導入したトラクター

【異分野でも生きる経験力】

機械メーカーに勤務していた頃は、データの蓄積や分析を行い、商品開発をしていました。農業においてもそういったことが重要だと感じているため、現在は農業技術コンサルタントを活用し、データに基づいた栽培を実践しています。ベテラン農家の経験や勘を数値化し、データとして把握できるよう努めています。

また、換気や灌水は自動化しました。水は地下水を利用していますが、この地域の水は鉄分を多く含むため、一度池に汲み上げて鉄分を減らしてから使用しています。

困ったことがあれば、先輩農家や農業改良普及センター、平取町農業支援センターがしっかりサポートしてくれるので安心して農業に取り組むことができました。



ビニールハウスは7棟



収穫間際のトマト
はまだ青いです



池に地下水を溜めています

【人とのつながりを大切にしています】

不慣れな土地での暮らしは大変ですが、積極的に地域の人々と交流を持つように行動し、JA青年部や4Hクラブに加入することで、コミュニケーションの輪を広げています。また、瑠南さんはJA女性部の「フレッシュミズ」にも参加し、JAで販売する商品の収益改善やパッケージデザインの提案等、新たな取り組みにも挑戦しています。

6月から11月中旬のトマト収穫期は大変忙しいですが、人手不足のためパートの確保が困難です。そこで、来年度から外国人技能実習生の受け入れを予定しています。

【今後の展望】

まずは、7棟のビニールハウスをしっかりと活用した営農に取り組み、人材確保などの課題を解決できたら、農業以外のことにもチャレンジしたいと考えています。

その一つとして、地域の人々が集まって、コーヒーを楽しむことができるスペースの開設です。現在、瑠南さんの趣味が高じて、自らコーヒー豆を焙煎し「山の駅」で販売しています。町内にはコーヒー豆を取り扱う店舗がなかったため、販売は非常に好評です。将来的には、農業が休みになる冬の期間を活用して、コーヒーを通じて人々が集まる笑顔溢れる温かいスペースをつくりたいと考えています。



こだわりのコーヒー

【農業者になりたい方々に伝えたいこと】

夫婦で就農をすると、24時間一緒に過ごすことになるため、家庭と仕事を混同しないようにバランスを保つことが大切です。そのためには、お互いに無理や我慢をせず、言いたいことを言い合える関係を築くことが重要です。